

## 牧師、バイカー、鮫職人として。。。シェア from LA 第73話 「焼き鳥屋にて」

前回72話からの続き。

さて集会はクリスチャンだけが大量集まってワアアと終わった。宣教ではなくただの親睦会、往復100キロ何しに来たか分からない。すでに午後9時だ。茶菓子の出るレセプションを辞退し苦々しい気持ちで外へ出た。ここまで遠方まで来たからには「何としても誰かに福音を語りたい」というメラメラと込みあげてくる。「このままでは帰れねえ。。。」

夕食がまだなので大好きな焼き鳥屋に行くことにした。何せここは天下の“サウスベイ”、石を投げれば日本食レストランにあたるほどの街だ。まずは老舗の「鳥松」へ行ったら超満員なので諦め、次いで人気店「新撰組」へ行ったら空席がある。時はすでに10時前になっていた。上手く行けばここで焼き鳥をつまみながら伝道できるかも知れない。「主よ。何とぞ私に力と言葉、そして知恵をください。福音を語らせてください」と祈りつつ店へ入った。夫婦でカウンター席へ座り飲み物をオーダーした辺りで珍事が起こった。まるで水が引くように何十人もいた客が一斉にいなくなったのだ。なるほど、平日夜10時なのでサラリーマンたちは帰る時間だ。誰もいなくなった店内を見て「これは行けるかも！」と喜んだ。明らかに主は福音を語るチャンスをくださった。

カウンター横の壁には新撰組グッズが色々飾ってある。「総長 近藤勇、副長 土方。。。ん？おい、コレ間違ってるで」と私は店員の青年に声をかけた。「えっ、そうなんですか？！」と彼。「局長 近藤勇、副長は土方、総長は山南敬助や。」「あ、そう言えば誰か言ってたなあ。」彼の名はコーイチロー君。学生のアルバイトだそう。私はさらに横にある札を見て、「人生は重荷を負って遠き道を行くがごとし？兄ちゃんコレ誰の言葉か分かる？」と聞いたところ、「知りません。誰ですか？」と聞かれたので徳川家康であることを告げ、「“新撰組”やのにアカンやん」などと互いに爆笑した。

しばらくして彼は「お客さん、ご職業は？」と聞いてきた。「何やと思う？」と聞き返したら、「う〜ん分かんないな〜、ガラが悪いので背中に絵とか書いてる方じゃないですか？ いや、歴史に詳しいからなあ。学校の先生ですか？」と笑わせてくれたところで、私は牧師であることを告げた。「ええ？！牧師さんですか！そうは見えないっす！」と彼が驚いた時、私は聖霊の力を受けを完全に戦闘モードに入った。そこからは焼き鳥つまみながらのマンツーマン伝道集会となった。

「コーイチロー君、聖書を読んだことは？」「ないです。」「じゃ教会へ行ったことは？」「ないです。」「せやろ？たいの日本人はそうなんや。そういう人に俺は福音(ええ話し)を説いて回ってる。お分かりのように基本的に教会へはクリスチャンしか行かない。でもホンマは教会は君のように“教会へ行かない”人のためにあるんやで。」などと始まり、聖書を説き、キリストが救い主であることなどを語りまくった。彼も身を乗り出して熱心に色々尋ねてきた。いつの間にかウェートのユミちゃんという女子大生も話に加わり耳を傾けていた。何せほかに客はおらず、誰にも邪魔されず、迷惑かけることもない、あっという間に1時間半が経過したところで、自前の「もの言う牧師のエッセー」のトラクトを数枚取り出して2人に手渡し、「じゃあ君たちのために祈ってもいいかな？」と切り出した。「え？！ここで祈っていいんですか？！」「もちろん。神は全地に満ちておられる。教会へ行かないとダメなんてことはない。」と答え、彼らの祝福と救いを、また、2人が学生なので無事に卒業できるようにも祈った。苦々しい夜は最高の夜となり、天を仰いで神に感謝した。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」

第二テモテへの手紙4章2節

2023-6-20

